

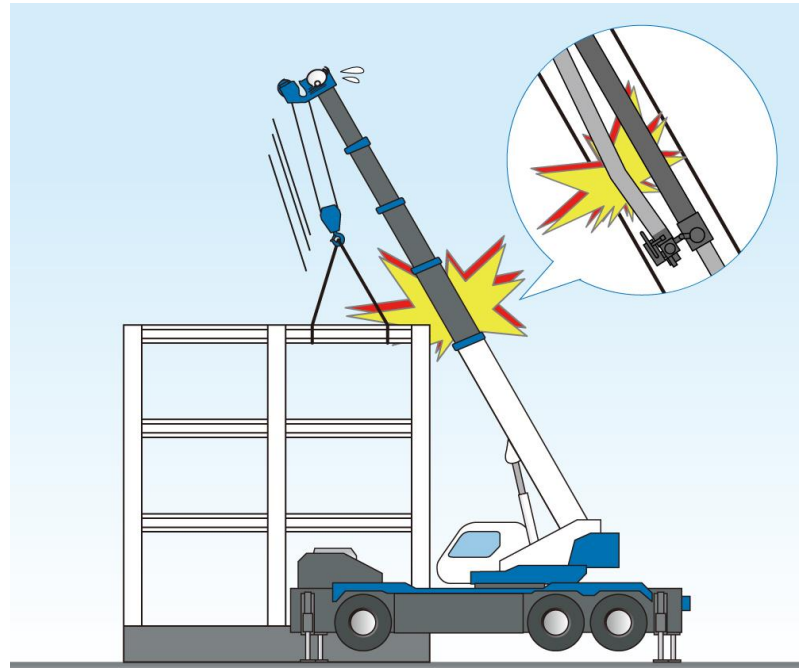
事故事例

斜めづりによるブーム伸縮シリンダ損傷事故

ラフテレーンクレーン

事故発生状況

建物の柱組立作業において、梁をつり上げ、組み付け位置を合わせていた時、斜めづり状態となった。
この状態で保持していたところ、ブーム内の伸縮シリンダが折損（座屈）した。

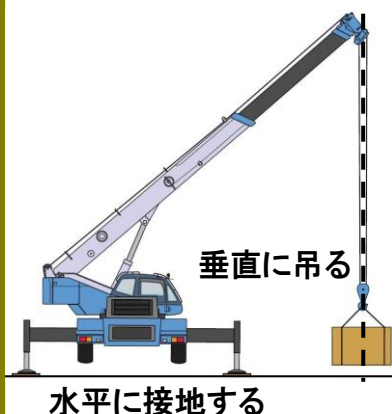


原因

斜め方向につり上げたため、AML の荷重検出が正常にできず、ブーム縮め方向へ過大な負荷が掛かり、ブーム伸縮シリンダが折損（座屈）した。

対策

つり荷は垂直につり上げる



禁止

AML の実荷重表示は、つり荷を垂直につり上げた状態での荷重値を算出しています。
斜めづりを行うと、AML が実荷重を正しく算出できないため、クレーン作業時は必ず水平に設置し、つり荷は垂直につり上げてください。

荷の横引き・斜めづり・引き込みは、クレーン各部に過大な負荷が作用し、損傷や転倒のおそれがあります。